

## 常夏のカリブの国から、北の大地へ



深田 麻友 (ふかだ まゆ)

京都府宇治市出身。2020年に八雲町地域おこし協力隊として活動をスタート。2017年～2019年JICA海外協力隊でベリーズ（カリブ海に面し中央アメリカにある国）へ派遣、ソフトボールを教える。

### 【地域おこし協力隊応募のきっかけ】

2020年に北海道八雲町の地域おこし協力隊に着任し、2年目に入りました。

小学3年生から大学までソフトボールをやっていたこともあり、海外でもソフトボールを教えたいという思いから、JICA海外協力隊として中米のベリーズという国で2年間ソフトボールを教えていました。

ベリーズでの暮らしは、「GO SLOW」という言葉が使われる程、緩やかに時が流れる、ゆったりとした生活でした。2年間の任期を終え、再度ベリーズに戻ってしばらく経った頃、新型コロナウイルス感染症が始まり、その影響で日本に帰国せざるをえなくなってしまいました。



JICA海外協力隊 ベリーズでソフトボールを教える様子

日本での生き方を考えたときに、都会の慌ただしい環境での生活ではなくゆったりとした田舎暮らしをしたいと、地域おこし協力隊になろうと決めました。そんな時にちょうど、インバウンドをターゲットとした体験型観光と、道南の広域連携観光の活動を行う八雲町の地域おこし協力隊の募集を見つけ、海外での経験を活かせることや、元々外国人と関わる仕事に興味があったこともあり応募にいたしました。

八雲町どころか北海道にさえ来たことがなかった私ですが、常夏のベリーズでの暮らしから一転、私にとって未踏の地であった北海道での生活が始まりました。

### 【八雲町での暮らし】

八雲町は「二海郡」という名のとおり、日本で唯一日本海と太平洋に面する町です。自然豊かで海や山まですぐの環境、道外から北海道に来た人の多くが感じることだと思いますが、食べ物が美味しいことや新鮮な食材が手に入るといったところが、とても住みやすく、気に入っています。

函館まで車で約1時間半の距離に位置する八雲町。来たばかりの頃は車で1時間半は遠いと思っていたのですが、今ではすっかり道民の距離感覚になってしまい、函館なら近いと感じるようになりました。

休日には八雲町や近隣のまちのローカルなお店巡りをしたり、写真が好きなのでカメラを手に撮影に出かけたりして、八雲での生活を楽しんでいます。

また、来るまでは知らなかったのですが、偶然にも八雲町はソフトボールが盛んな町で、人口が1万5千人ほどの町なのにも関わらず6チーム（2022年シーズン）もあり、幸運にも今でもソフトボールを続けることができる環境にあります。



八雲町の風景

## 【これまでの活動】

協力隊としてのミッションが、「インバウンドをターゲットとした体験型観光」と「道南の広域連携観光」ということで、まずは八雲町を知ることから始めました。八雲町は酪農・農業・漁業、どれも盛んな町で、和牛・乳牛のお世話、軟白ねぎの収穫、もち米農家さんでのもちつき、ホタテの耳吊り（養殖）。これらの第一次産業の体験ツアーの受け入れを行いました。

当初は、コロナ禍になる前からワーキングホリデーなどで日本にいた外国人旅行客がいましたが、月日が経過するにつれ観光客自体がほとんどいなくなっていました。そこで、ターゲットを外国人から日本人にシフトしつつ、近隣市町からのマイクロツーリズムに切り替え、道南地域の活性化に力を入れ始めることにしました。

また、八雲町に事務局を持つDiscover Southern Hokkaido\*のメンバーの一員として道南の市町村をつなげ、地域住民に自分たちの住む地域の良さを改めて知ってもらおうと、函館市内でイベントを開催しました。道南の18市町の魅力を改めて地域住民の方々に知ってもらおうイベントになったと思います。並行して、道南の魅力を再発見することをテーマとしたフォトコンテストと展示会も開催しました（Instagramで「#どーなんフォトコン2021」と検索すると、道南の魅力あふれる投稿写真を見ることができます）。このイベントを通し、単に道南の魅力をPRするだけでなく、道南各地で地域を盛り上げようと活躍する人たちがつながって連携し、より大きな力で地域を活気づけるグループが誕生したことは大きな収穫だと感じています。

その他にも、他の八雲町地域おこし協力隊メンバー



体験観光 スノーシューツアー

と協力して「やくもにじいろマップ」という観光マップの制作や、八雲町の観光情報や生活についてSNSでの発信にも取り組んでいます。

## 【スポーツホスピタリティコーディネーター】

八雲町の地域おこし協力隊として約一年半、観光分野での活動を行っていくなかで、スポーツ分野でも地域おこし活動ができるのではないかと考え、観光の経験を活かしたスポーツツーリズムを行いたいと活動の方向性の転換を提案しました。まだ始まったばかりですが、スポーツ合宿誘致活動などを通して、関係人口や交流人口の増加による町の活性化を目指していきたいと考えています。

## 【新しいことが生まれるまち】

まだ八雲町に来てから1年半ほどしか経っていませんが、地元企業が主催するマルシェ、地域コミュニティスペースでのイベント、ゲストハウスやシェアハウス、コワーキングスペース、寺子屋、廃校を利用したキャンプ場、間借り店舗など、このまちでは新しいことがどんどん生まれ広がっています。新しいことにチャレンジするなら八雲町で、といった流れができつつあるとも感じています。

地域おこし協力隊として八雲町で生活し、今後定住を考えるにあたって仕事も重要ですが、地域とのつながりやまちの魅力が人を惹きつけるものだと考えています。地域おこし協力隊の任期終了後のことはまだ決まっていません。限られた残りの任期中でもっと八雲町を知り深く地域に入り込んでいけるよう、これからも地域おこし協力隊としての活動を続けていきます。



八雲町地域おこし協力隊

\* 2020年7月に設立した道南の観光窓口の一本化と広域DMO登録を目指す任意団体。これまで道南の半分以上の地域と連携し、地域をまたいだモニターツアーや、道南観光事業者向けの研修会や交流会などを開催している。